

ONGAKUをふかめよう

『改訂版 ON! 1』では、「ONGAKUをはじめよう」と題して、楽譜の読み方の基礎をはじめとした音楽入門といった内容で、音楽に興味をもってもらうようなアプローチを行った。続く『改訂版 ON! 2』は、「ふかめよう」と題し、より深い表現方法を知ったり、編曲の工夫をしたり、ユニークな発声法、メロディーと言葉の関係など、さまざまな角度から音楽表現にアプローチする。また、4ページにわたるこのコーナーは、教科書本文と深く関連をもっている。このコーナーを併用しつつ、以降に掲載されている楽曲などの学習を進めるといった、立体的な学習が可能である。

1 さまざまな表現

[p.4]

詩をよく読んだ上で、自分に合った方法で表現するとともに、編曲の手を加えることで、より個性的な表現を目指す。

STEP1 表現方法を工夫しよう

【授業例】

——「上を向いて歩こう」という歌は知っていますか。

どんな人がどのように歌っているイメージがありますか。

坂本九をはじめとした多くの歌手が、それぞれのスタイルで歌っていることを紹介する。

日本のみならず、海外でも、「SUKIYAKI」と題されて、古くから全米ヒット・チャートに上がったことを紹介する(p.8欄外「memo」を参照)。p.9欄外の「try」をきっかけとして、その経緯を調べる。また、各国語に訳されて歌われていることも紹介。

——もともとこの歌は、1961年、作曲家・中村八大のリサイタルで、19歳の坂本九が歌って発表されました。その時の歌い方について、作詞の永六輔はこう書き記しています。

「ウヘッフオムウフィテ アハルコフホフホフホフ
フ ナハミヒダハガハ コッボレッツヘエナハイヨ
フホフホフニ」

永六輔さん自身は、「歩こう」と詩に書いたわけで、決して「コフホフホフホフ」と書かなかった、と言うのですが、この独特な歌い方は一つの個性ではないでしょうか。

もし、みなさんが歌うとしたら、どんなふうに歌いますか。

p.8の楽譜を見て、歌詞をよく読んでみましょう。そこから、自分だったらどんなニュアンスで歌うか、どのようなテンポで歌うか考えて、歌ってみましょう。

さて、さまざまな歌い方の工夫の他に、楽曲に手を入れて曲の雰囲気を変える方法があります。

たとえばこの歌に何か打楽器でリズムを加えてみたらどうでしょうか。

p.4譜例1の[A]や[B]のリズムを演奏し、それらを適宜組み合わせながら歌ってみる。ここでスウィングのリズムについての説明も行う。

次に、譜例2を歌ってみる。メロディーと一緒に歌うことで、簡単な2重唱が楽しめる。

譜例2とメロディーとを一緒に歌うと、冒頭の部分が「輪唱」あるいは「カノン」のようになっていくことに気付く。そこで、こんなふうに歌うこともできる(譜例A)。

なお、ここから、次のように「輪唱」への興味をもたせるのもよいだろう。

輪唱は、合唱とは異なり、パートごとの練習も省けるため、限られた時間の中で効率よく合唱の醍醐味を味わえる点で有用だろう。また、対位的な音楽(フーガなど)を楽しむこともできる。この教科書では多くの輪唱曲を掲載してあるので、是非活用したい。

輪唱の導入として、まず、よく知られた「かえるのうた」「静かな湖畔」「Row, row, row your boat」などを取り上げてよいだろう。